オフィスの知的生産性に対する定量的な評価指標の構築に関する研究
ー働きやすさに関する潜在意識の抽出と環境要因の定量評価ー

Study on Construction of Quantive Performance Index for Intellectual Productivity of Office
(Quantitative Evaluation of Extraction of Subconscious and Environmental Factors about Working Conditions)

三浦 太郎※1 Taro Miura　科部 元浩※2 Motohiro Shinabe　小林 真人※1 Masahito Kobayashi　工藤 恵美子※3 Emiko Kudo　佐藤 考浩※4 Takahiro Sato　辻村 壮平※4 Sohei Tsujimura

1.技術研究所　研究開発G　第二研究室　2.新事業統括部　新事業開発T　3.建築統括部　意匠設計G　意匠設計T　4.茨城大学大学院

キーワード　知的生産性向上　働きやすさ　オフィス　評価グリッド法　アンケート

概　要

オフィスの知的生産性を向上させるためには，働きやすいオフィス環境の提供が重要であり，そのためには，オフィスへの要求性能を把握する必要がある．そこで，オフィスワーカーのオフィスへの要求性能を把握するために，飛島建設の社員を対象に評価グリッド法を用いた面接調査を行った．面接調査の結果からオフィスの働きやすさに対する評価構造図を作成し，環境要因（音環境，視環境，空気・温熱環境）に該当する項目を抽出した．

次に，働きやすさに対する環境要因の重要度を明らかにするためにアンケートを実施した．アンケート結果から得られた 322 の指摘のうち，環境要因に属するものは 146 項目であった．そのうち，66 項目が音環境，65 項目が視環境，15 項目が空気・温熱環境に該当し，オフィスの働きやすさには音環境と視環境が重要であることが分かった．

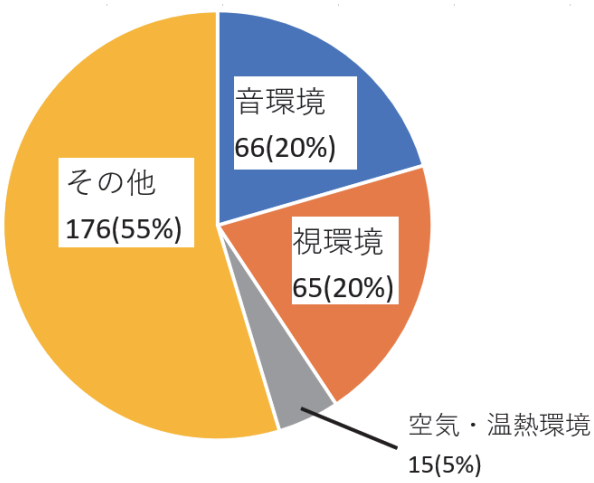
成　果

- 評価グリッド法を用いた面接調査の結果から，管理職，一般社員ともに“作業効率”を重要視していた．加えて，管理職では，“知識創造”を重要視しているのに対し，一般社員は“疲労低減”や“モチベーション”を重要視していることがわかった（**表ー1**）．
- アンケート結果から，指摘数の中の音環境，視環境，空気・温熱環境とその他に分類した内訳では，音環境と視環境の割合が多いことが分かった（**図ー1**）．

表ー1　オフィス空間への要求性能として重要視される項目の抽出結果

	作業効率	アイデアが生まれる	精神的に疲れない	モチベーション	疲れない（身体）
管理職（6名）	4名	6名	2名	1名	0名
回答者割合	67%	100%	33%	17%	0%

	作業効率	アイデアが生まれる	精神的に疲れない	モチベーション	疲れない（身体）
一般社員（13名）	10名	5名	9名	6名	7名
回答者割合	77%	38%	69%	46%	54%



図ー1　働きやすさに影響を与える要因の指摘数